

受賞は自らの道を進む 大きな後押し



2006年から始まり、今回で11回目を迎えた「NRI学生小論文コンテスト」。

本コンテストの特徴の一つに、受賞後OB・OGとなっても、NRIや受賞者同士で交流が続いていることが挙げられます。

今回の受賞者も交えて開かれたOB・OG懇親会で、参加した皆さんに近況を聞きました。



大学で助教に就き 世界をフィールドに 活動しています

新保 奈穂美さん

第4回(2009年)

【大学生の部】優秀賞受賞

論文タイトル: ヨーロッパにおける日本のIT
ビジネス展開を目指して—日本の誇る非接
触型ICカード技術を武器に
応募当時: 東京大学 農学部4年

受賞が自信にもつながり、海外での調査や研究発表、研修参加などを続け、東京大学で博士号を取りました。研究テーマは、都市農園(街の中で市民が花や野菜を育てる農園)の計画です。現在は筑波大学 生命環境系の助教として、地球環境や社会共生などの地球規模課題を解決できる人材を創る、英語プログラムの立ち上げに携わっています。海外をフィールドにした活動は、受賞当時の思いや経験がベースとなっています。



企業を顧客とした コンサルティング業務に 携わっています

山岸 拓也さん

第5回(2010年)

【大学生の部】優秀賞受賞

論文タイトル: 水から始める開発途上国支援
—ビジネスと援助の融合を目指して
応募当時: 一橋大学 社会学部3年

総合シンクタンクで民間企業に対するコンサルティング業務に携わっています。顧客である企業の業務上の課題を解決する方法を考え、提案する仕事です。大学当時、やっていた柔道を怪我をして1年間休んでいた時にコンテストを知り、論文に取り組み、受賞することができました。大学院の2年間、NRIでアルバイトをした経験から現在の仕事を選びました。今は仕事に集中し、頑張っています。



NRIでインフラ関連の コンサルティング業務に 携わっています

波利摩 星也さん

第6回(2011年)

【大学生の部】大賞受賞

論文タイトル: 日本型「もったいない社会」
の提案—農業+交通インフラという持続可
能都市モデル
応募当時: 東京理科大学大学院 工学研究科
修士課程1年

社会活動や社会提言などに興味があり、受賞したことで、日本や世界の将来を考えることを自分の今後の活動にしたいという確信を持ちました。受賞後NRIの方々と話をしていく中で、ここなら希望する仕事ができると思いました。今はインフラ関連のコンサルティング業務として、自治体や企業に都市計画を提言する仕事もしています。本コンテストには1次審査の社内審査員として関わっており、学生の提案から多くの刺激をもらっています。



農業大学に進学して 植物を病気から守る 研究をしています

谷口 淳人さん

第7回(2012年)

【高校生の部】優秀賞受賞

論文タイトル: 次世代に残す「里山」—コウ
ノトリの舞う環境を守る農業の実践をめざ
して
応募当時: 神奈川県立中央農業高等学校2年

高校入学時から農学系の大学進学を志望していましたが、里山の保全について書いた論文で受賞したことは進路を決断する後押しになりました。現在は東京農業大学の植物病理学の研究室で、いかに植物を病気から守り、生産量を守るかという研究をしています。これからさらに将来に向けた研究テーマを模索して、大学院進学からいずれは研究職という道も、将来の選択肢として考えています。